

つるおか芸文だより

第17回鶴岡市 芸術祭賞決定

今年度の第17回鶴岡市芸術祭は、9月～12月までの約3カ月に渡り、44団体による35公演・展示が実施されました。コロナ禍での開催ではありましたが、参加公演・団体数ともに昨年度より増加し、また全公演への観客入場者数も約16,000名にのぼり、多くの皆さまが芸術文化に触れる機会となった芸術祭は、盛況のうちに幕を閉じることができました。

12月24日には閉幕のつどいを開催、芸術祭賞については次のとおり決定しました。

大賞に鶴岡放送児童合唱団

準大賞は鶴岡市合同短歌会

《評》鶴岡放送児童合唱団
『みんなの音楽会』

コロナの影響を受けながらも一生懸命練習に取り組んだ、団員の熱意が伝わる素晴らしい演奏会であった。作曲家信長貴富先生の委嘱作品全4曲の初演披露で、子どもたちの生きいきとした美しい歌声がホールに響き渡り、平和を願うオリジナル音楽劇の熱演とともに、レベルの高さも見事と言える舞台であった。音楽文化を支える小さな子ども達の大きな力に、感謝の拍手を送り贈りたい。



定期演奏会的一幕



大賞 鶴岡放送児童合唱団

《評》鶴岡市合同短歌会

第60回の節目にあたり、会員一同の熱気が感じられ、講師の方の丁寧な指導と適確な批評の功もあり、大変盛り上がった歌会でした。初めての企画として、歌人「斎藤茂吉翁」の一生を琵琶語りで演じるなど工夫を凝らした構成も良かった。会員相互の「繋」を大切にしながら、自信と誇りを持って生涯短歌を愛し続け、文化のまち鶴岡の一端を担う気概を示す歴史の重厚さを感じる短歌会であった。



準大賞 鶴岡市合同短歌会

芸術祭で開示された 地域の未来



特定非営利活動法人

鶴岡市芸術文化協会

会長 東山 昭子

「地域に開かれた芸文活動」と「次世代につながる人材の発掘」を目指した「第17回鶴岡市芸術祭」は、開幕記念公演から「閉幕のつどい」まで、つづがなく進行し、大きな成果を挙げて終了することが出来ました。芸術祭顧問各位、審査委員各位には深甚の感謝と敬意を表します。有難うございました。種々変容しつつ終息を見ないコロナ禍の下、十分な活動が出来ないまま、公演を断念せざるを得なかった団体もありました。黙座していても時は流れゆくのみと細心の配慮で臨んで頂きました。行事遂行を因とする感染拡大の無かったことに安堵しています。困難な状況を克服しての公演には、逆境を乗り越えた本物の強靱ささえ見られました。更には熟達の技と子ども達の育成に賭けた熱意で、新しい世界も開かれました。芸術祭大賞の「鶴岡放送児童合唱団」の真摯にして爽やかな公演、準大賞受賞の「鶴岡市合同短歌会」、今年度初加盟初参加の「ステンドグラス、光彩」作品展」など受賞団体の皆様、おめでとうございます。酒井家入部四百年を記念し、戦争の悲惨が日常に伝わる世界に「平和に祈り」を強くアピールした「表現舎刻一刻」の16年ぶりの県民芸術祭大賞受賞など、市民各位と「美と愛の感動」を共有出来ました。清冽の泉沸き出る芸文活動で、地域の未来を、喜びをもつて共に開いてまいりましょう。

記念公演で華やかに幕を開けた芸術祭



鶴岡市教育委員会教育長 布川 敦

今年度の鶴岡市芸術祭は、
 荘銀タクト鶴岡を舞台に、
 「芸術文化でつむぐ鶴岡物語
 ～創る～」をテーマにした記
 念公演でその幕を開けました。地域に伝わる伝統芸
 能、地元高校生による合唱、音楽とダンスのセッシ
 ョンやミュージカル、そして芸術文化を地域で学ぶ
 「こども文化クラブ」の子どもたちを交えた演奏や
 舞踊など、多彩なジャンルの公演は観客を魅了しま
 した。また、エントランスは素晴らしい作品の数々
 に彩られ、多くの人が集まる賑やかな一日となりま
 した。東山昭子会長はじめ、鶴岡市芸術文化協会の
 皆様のご尽力に深く感謝を申し上げます。

令和4年は、酒井家庄内入部400年の節目の年
 であり、官民挙げて様々な事業が展開され、この地が
 育んできた文化芸術への関心が高まった年となりま
 した。芸術祭でも、その歴史にちなんだ公演が見受
 けられ、多くの市民が文化芸術を通じて自分の住む
 まちの歴史を深く知る機会になったものと思います。
 コロナ禍と言われて3年が経ちますが、この間、
 文化芸術が私たちの人生に潤いを与え、生きる喜び
 をもたらしてくれることに改めて気づかされました。
 多くの方が文化芸術に触れ、そのエネルギーを享受
 し、感動を共有できるよう努めてまいりますので、
 芸文協の皆様には、なお一層のお力添えを賜ります
 ようお願い申し上げます。

優秀賞の3団体



如月会水墨画展
 如月会



スタンドグラス“光彩”作品展
 スタンドグラス“光彩”



宝生流・観世流合同謡曲大会
 宝生流鶴岡五雲会・庄内謡曲愛好会

東山 昭子氏 市政功労者表彰受賞祝賀会



受賞者あいさつ

本年度の鶴岡市市政功労者表彰を受賞
 した東山会長の受賞祝賀会が、2月19日
 東京第一ホテル鶴岡で開催された。
 祝賀会には芸文協加盟団体をはじめ、
 多岐にわたる分野の関係者約200名が
 出席し、東山会長の長年の功績に対する
 受賞を祝った。
 来賓の方々に
 よる祝辞、祝吟・
 祝舞の披露に続
 いて乾杯し出席
 者皆で受賞の喜
 びを分かち合い
 ました。
 お孫さんと一緒に記念撮影



第17回鶴岡市芸術祭閉幕のつどい～授賞式・懇親会～



布川教育長より大賞授与



祝辞 皆川市長



挨拶 東山会長

閉幕のつどいは、12月24日に東京第一ホテル鶴岡を会場に開催され、皆川治市長はじめ、来賓各位、加盟団体関係者等約120名が出席しました。授賞式では、布川敦教育長より受賞団体へ芸術祭賞が授与され、東山昭子芸術祭賞が長が主催者挨拶を行いました。また、芸術祭大賞の鶴岡放



大賞受賞記念公演

送児童合唱団が受賞記念公演を披露し、会場内は子ども達の清らかで素晴らしい歌声に包まれました。3年ぶりの開催となった懇親会は、コロナ感染症対策を講じた形式での開催ではありましたが、久しぶりに集う仲間とのひと時を楽しみ交流を深める機会となりました。



錦心流一水会による琵琶祝奏



会場の様子

～困難下での開催に感謝・感動～

今年の芸術祭もコロナが収束しない中での開催になり、どうしてもコロナを意識した芸術祭にならざるを得ませんでした。このような状況下にも関わらず、皆さんの御努力のおかげで、盛り上がった芸術祭になったと思います。選考委員も新メンバーが加わり、それぞれの分野で適切な選考をして頂き幸いでした。選考委員各位に感謝申し上げます。新年度は、コロナを気にせず開催できます様切望しております。



芸術祭賞選考委員長
後藤 和夫

鶴岡市芸術祭賞 選考委員のみなさん

後藤 和夫
小林 功
難波 正喜
齋藤 敬
堀 公明
藤間静貴久
伊達 克夫
佐藤 晃
梅津 芳春
市川 清治
五十嵐悦郎
鈴木 豊苑
小林 健郎
佐藤 宗偉
佐藤よし子
佐竹美津子
齋藤健太郎
布川美與子
佐藤 嘉男
柿崎 泰裕
榊原 賢一



特別参加公演2団体

*芸術祭大賞を授賞後3年間は「特別参加」となります。



鶴岡剣聖会 剣聖流「剣と扇の舞」

● 11月22日
● 中央公民館

剣聖流剣詩舞20演目を二百名の市民の皆様のご来場のもと発表することができた。構成舞「幕末、命を燃やした男たちのひと言」では登場人物をリアルに表現するため舞はもちろんな衣装の工夫もした。会員減少のため一人二演目を演じ志士たちの生き様を十分表現できたと自負している。この思いを次回への糧にしたい。

(小竹郁弥)



楽器と楽曲の マッチした演奏会 山形県大正琴・文化箏愛好会

● 9月19日
● 中央公民館

第33回記念公演でいただいた鶴岡市芸術祭大賞と県民芸術祭奨励賞の2つの受賞の喜びを心に今回の公演にのぞみました。琴の持つ集合音の良さ仲間と集う中で技術を磨きながら第34回公演で表現出来たように思います。又こども文化クラブの出演もいただき未来へと紡ぐことを願ひ私達が思う日本人の心を歌う楽曲が楽器とマッチして気持ちの良い演奏会でした。(梅津芳春)



創立98周年・令和4年度 白甕社美術展

白甕社

● 8月31日～9月11日
● アートフォーラム

今年度もコロナ禍と共存し大過なく終了しました。出品者、入場者共若干増加しました。今年も学生の健闘が光りましたが高校生に加え現役の芸工大生の出品もあり個性豊かな若い力作が多く感銘を与えました。殊に第一室一般の白甕社賞受賞作品は鶴南高二年生です。大正13年に白甕社と創立した天國の諸先輩も後輩の活躍に喜んでいてと思います。

2年後には創立100周年記念を迎えます。コロナ感染症も収束し盛大に祝福されることを祈っております。
(五十嵐千恵子)

第17回 鶴岡市芸術祭

令和4年度県民芸術祭協賛



あつみ作品展

温海芸術文化協会

● 9月16日～19日
● 温海ふれあいセンター

温海芸術文化協会会員の作品発表の場として親しまれている「あつみ作品展」。

活動休止等の影響により出展作品数は多くないものの、今年は、陶芸、生け花、切り絵、俳句などの例年出展されている作品以外にも、絵画や掛軸の出展もあったため、昨年よりも華やかな作品展となりました。

(本間庸枝)



酒井家庄内入部の歴史を語る

錦心流琵琶全国一水会鶴岡支部

● 9月11日
● 中央公民館

酒井家庄内入部四百年記念にちなんで、曲目は「天保一揆の旗風」「藩校致道館」「荘内戊辰の戦い」「松ヶ岡」「酒井家十七代源忠明公」の五曲を琵琶語りし、太鼓とのコラボで幕をあけました。

背景には羽黒山を描いた「森巖」の屏風を配置し、スライドで字幕を映し、見て聴いて分かり易さ、楽しさに心掛けました。
(市川清治)



地域文化の継承を 「民謡・舞踊」さざ波会

● 9月25日
● 中央公民館

冒頭に「コロナ」と出て来る時代、その規制も少々緩んで、何とかそれなりの催しは出来た形だが、目指す事には程遠いものに成らざるを得なかった。

昨今、鶴岡での民謡は存亡の危機感。先人より連綿と伝えられて来た地域の伝承文化が途絶えてしまいうような心配。何とか繋いで行きたいものです。秋田では高校に民謡部あり。

(佐藤睦)



第20回田川民話の会 語り市 「んだば、語ってみつがの朝陽宿」 田川民話の会

● 9月24日
● 第一学区「コミュニティ防災センター」

第20回目の語り市なので、お客様はもとより会員も楽しんで語りしようのスローガンでした。それぞれ一人での語りなので個々に練習を重ねてきました。アンケートを拝見致しました。楽しんで、心落ち着き幼い頃に戻れたと評価をいただき会員も嬉しく思っております。黙食、黙読、マスク生活の中充実な一日を終えられました。

(帯刀春男)



「枕草子」から「源氏物語」へ 雅な世界を表現！ 一東書道会鶴岡支部 畠雅会

● 9月30日～10月2日
● アートフォーラム

昨年の三十九周年が終わった後に、今年の四十周年は、やりましょう！と宣言して、枕草子から源氏物語に、題材を求めて、一人一点扇面に、一首づつ書き二尺六尺の額に張り、雅な雰囲気。半折額に、軸に。関戸本古今集の臨書を額に。次は巻子と帖に発展する様又二尺六尺の紫の紙に源氏物語の歌一九首を選び、作品に仕上げた。

(阿部畠雅)



ハウオリフラ スタジオ 17周年公演 ハウオリフラ スタジオ

● 9月25日
● 荘銀タクト鶴岡

コロナ禍での公演開催、感謝致します。「思いやりの心(マラマ)」をテーマに、自然、仲間、家族に感謝しそして思いやりの心を胸にきざみ、素晴らしい舞台を創る事ができました。これからも感謝、信頼、希望、思いやりの心を忘れずに研鑽してゆきたいと思えます。

(伊藤久美子)



表千家流茶会 表千家同門会 山形県支部庄内地区

● 10月2日
● 致道館

コロナ禍で三年ぶりの茶会となりました。萩の咲き誇る秋晴れの日、酒井家入部四百年の記念の年に「藩校」で茶席を愉しんで頂くことが出来、安堵しております。

感染対策に配慮し、ご案内者を例年の半数にし、設えや呈茶の方法に苦慮致しました。特例の多い茶会になりましたが、皆様のご理解に深く感謝致します。

(志田宗川)



K×I×Y 三人展 Vol.3 | 時の覚醒 | K・I・Y

● 10月1日～2日
● アートフォーラム

「K・I・Y」は、鶴岡在住の三名のアーティスト(木村修身・石黒清一・山澤昭彦)が結成したグループです。三名は高校の同級生で、これまでも各人で個展などを開催してきましたが、同じ空間に一緒に作品展示をしたら面白いのではないかと、3年計画でテーマを決めて「三人展」を行うことになりました。今年のテーマは「時の覚醒」、三名がテーマに沿った内容の作品を展示しました。

(山澤昭彦)

第60回鶴岡市合同短歌会

鶴岡市合同短歌会

●10月6日
●中央公民館



鶴岡市合同短歌会も、第六十回を迎え山形県の生んだ歌人斎藤茂吉翁の名作とされる短歌を、スライドで鑑賞し錦心流琵琶の演奏と相まって満場の喝采を博しました。午後からの合同歌会は、県歌人協会の山川ひろみ氏による懇切な歌評を頂き、視野を広めることが出来て感銘を深くしました。尚「茂吉翁一代記」の編者は東山暁子氏です。

(市川照天)

掌上の秋の風情

鶴岡小品盆栽会

●10月13日～15日
●中央公民館



松の緑、もみじや楓の紅葉、黄葉、実物の輝く赤、草物の可憐な姿を飾り棚に配し、一鉢一鉢どれも掌のひらに乗せて観賞することができ、身近にそして手軽く楽しめる小品盆栽を展示会と言う晴れ舞台で会員一同の「我が家の盆栽」も輝いて見えました。

(上林節男)

第59回各流派合同いけばな展

鶴岡市いけばな7流派

●10月15日～16日
●アートフォーラム



新型コロナウイルスに翻弄され2年連続で中止となり、この度開催できたことは大変大きな喜びです。新しい生活様式を取り入れての今回の生け花展でしたが、7流派それぞれ伝統文化を尊重しながら個性あふれる多種多様な作品を展示でき、2221名の方にご来場頂き楽しんで作品をご観覧頂きました。

(鈴木秋翠)

第2回佳興の会公演

佳興の会

●10月16日
●佳興堂



コロナ禍の始まり令和2年春に結成し、年4回のライブを開催して来ました。10回目のライブに併せて芸術祭参加2回目の今回は、酒田の庄内能楽館でも開催し、好評を頂きました。今後も4人其々の分野で精進し、日本の伝統文化邦楽の魅力、そして四季折々の自然を共に感受しながらのライブを行っていきたい。

(岡政雄)

如月会水墨画展

如月会

●10月20日～23日
●中央公民館



出品数は54点(昨年比プラス5)、屏風・軸2、30～50号5点、10号16点、4～8号18点、色紙8点。ジャンルは、山水・風景37点と多く、花・静物10点、人物・家が3点でした。全国展入賞、入選作から新会員の作品まで幅広く充実した内容の展覧会となった。

(梅本幸仙)

朝日俳句・短歌・川柳合同展

朝日俳句の会

●10月21日～11月3日
●朝日中央コミュニティセンター



今年も、あさひ産業文化まつりの開催期間に合わせて、朝日俳句・短歌・川柳合同展を開催しました。

俳句部門では、今年度も小中学生から多くの出品があり、合同展の出品点数が235点と、大変見ごたえのある展示になりました。俳句などを通して、これからも学ぶことの楽しさを追い求めていきたいものです。

(佐藤照子)



構成吟「四季を詠う」

日本九重流鶴城清吟会

● 10月23日
● 中央公民館

構成吟「四季を詠う」の大会テーマを、会員が合吟（複数の人数で吟詠する）により舞台をまとめた。ステージにスライドで詩文を映写し、館内のお客様の詩文の理解の一助となるようにとの配慮をした。

（松本歎洲）



光と影のファンタジーな世界

スタンドグラス 光彩

● 10月22日～23日
● アートフォーラム

今年度鶴岡市芸術文化協会加盟団体となり第一回スタンドグラス「光彩」作品展を開催、出品者23名、作品数135点、2日間で839名のご来場を頂きました。雨まじりのお天気でしたが会場の光と影のファンタジーな世界に多くの感動の声を頂き会員一同励みとなる作品展となりました。
（布川美與子）



次年はすばらしい花を

鶴岡さつき盆栽研究会

● 10月28日～30日
● 中央公民館

会の発足から40年がすぎました。長くよく続けてこれたと考えています。じょうずに花を咲かせるようになったかと問われると「ぜんぜんだめ」です。考えるとまだ40回しか挑戦していないのだから当然です。気候の影響、消毒、肥料、土、タイミング、それぞれ勉強と実施をくり返して考えて行く必要があると思っています。来年こそは!!
（岡部誠）



書芸術の魅力

書道研究 飛雲会

● 10月27日～30日
● アートフォーラム

一般に書芸術は作品の観賞のみに終止する場合が多い訳ですが、元来、文字を様々な形や墨色で独特な空間を醸し出す事と、文字本来の意味を伝播する使命も担っている筈なので、いろんな角度や工夫で作品を発表していきたいと思っています。
（渡部飛雲）



詩歌で辿る良寛の生涯

日本九重流詩吟学会朝陽清吟会

● 10月30日
● 東京第一ホテル鶴岡

構成吟は、詩や和歌などを通して、世情の動きと合わせながら彼の年代別の想いに迫り、生涯を描いていくストーリーに仕上げ、若かりし頃と伺い知れる前半。後半は70歳のときに弟子にとった貞心尼との交流等をひも解いていった。作品の数々からは現代と生きる私達へのメッセージと捉えられるものが多々あると思われまます。
（百瀬皓洲）



三年越し「出羽・大和歴史劇交流公演」

出羽庄内市民ミュージカル

● 10月30日
● 中央公民館

コロナ禍で、出来なかつた「蜂子の皇子あすか里帰り公演」の後半企画で、あすか劇団「時空」を迎えて「歴史劇交流公演」を行いました。時空は遠方からの疲れも見せず公演ミュージカルメンバーも今度こそ公演を、の意気込みで、新作に果敢に挑みました。協力してくださった皆様にご感謝しています。
（高山千代子）

常にさらなる
高みを目指して進みたい
吉統舞踊学園

● 10月30日
● 荘銀タクト鶴岡



モダンダンスの持つ特性の創造性を中心に据えて、地域文化芸術の振興を願いたい。
出演者の望ましい成長を助長し、豊かな人間性を養い、高い理念を持って活動を続けたいと思います。創造性豊かな作品創りを心がけて、共に成長する事をよるこび合い、さらに高みを目指して力を傾けたい。さらなるご鞭撻を願い活動を続けたい。(吉統正義)

たくさんの方のメッセージを
歌声に込めて
鶴岡放送児童合唱団

● 11月3日
● 中央公民館



2年越しで委嘱作品初演の大切な節目を美しく歌い上げ、思い出深い演奏会でした。作曲家信長貴富先生に作曲をお願いした4つの合唱曲集は、コロナ禍でのつらい子供たちへ励ましと希望を与える感動の曲でした。又音楽劇「ちいちゃんのかげおくり」は、戦争の悲劇の無い、子供たちの未来が明るい事を願うステージで、メッセージ性溢れる公演となりました。(伴和香子)

第22回定期演奏会
スイング・クレイニス・ジャズ・オーケストラ

● 11月3日
● 荘銀タクト鶴岡



ゲストの知名度で入場者数が変わるのは仕方のない事ですが、来場された方々に「来年も必ず来るから」「サックスのひまわりの演奏に涙が出た」「四人の男性トロンボーンは圧巻だった」等のお言葉に力を頂きました。
来たる23回目に向けて一層練習に励み、素敵なステージを共に愉しみたいと思っています。(橋本祥造)

第74回荘内書道展覧会
鶴岡書道会

● 11月4日～6日
● アートフォーラム



鶴岡・田川地区よりの保・幼・小・中・高からの応募作品が昨年より少なく、約一〇〇〇点の展示となりました。学年ごと、学校ごと、高さなど、見やすい展示を心掛けました。多くの出品数を見込みたいので、要項などの配布時期を早めにしたと思っています。(山本良伸)

三年ぶりのお茶会
遠州流茶道山形支部

● 11月6日
● アートフォーラム



十一月のお茶会でしたので初めて炬開きの趣向で行いました。時々雨が降る天気でお客様には申し訳ありませんでした。
三年ぶりでしたのでお客様も大勢おいでいただき、喜んでいただきましたようです。
混雑する事が心配でしたが、密になる時間もそれほどなく、平均的に入席いただき終えることができました。(堀宗敬)

第十三回
写団はぐる会員写真展
写団はぐる

● 11月9日～13日
● アートフォーラム



今年の写真展は、コロナ禍の中で三年ぶりに開催できた事会員一同喜んでいきます。
出羽はぐる光景、大山新酒・酒蔵まつり、東京散歩、山の風景、四季の彩りを各自の視点で撮った作品を大勢の方に見て頂き、これからも思い出に残る写真を撮り続けて行きたいと思っています。
ありがとうございました。(菅原功)



合同謡曲・囃子の会

宝生流鶴岡五雲会 庄内謡曲愛好会

創立35周年記念第20回公演
「劇・平和を語り継ぐ」
表現舎刻一刻



令和の時代も平和であってほしい。そこから台本作りが始まり、鶴岡の歴史、日本の歴史から、庄内藩三方国替と沖繩を語り継ぐに決めた。皆川市長より観劇後のアンケートに、「400年にふさわしい素晴らしい民衆達の物語りでした。女性達が大切な役割を果たしていました。若い人達に見てほしいと思います」とコメント。感謝です。
(佐藤正二)

● 11月12日～13日
● 中央公民館

11月13日藤島の明治ホールにて謡曲・囃子の会が開催されました。内容としては、
素謡(役謡) 2曲
仕舞 4曲
囃子 4曲
連調が行われました。このように書いても、どんなものか観て聴いていただかないと分からないだろうなど、もどかしさを感じます。少しでも興味を持ってくれる人がいたらいいなと思います。
(西澤雪子)



第20回 オータムコンサート2022

バウムクーヘン

音楽絵巻 その2

西洋音楽との再会 江戸と明治の音楽事情

アンサンブル・チコリーニア



曲が作られた歴史的背景などを語り入れる音楽絵巻という形式の三部構成のプログラム。
安土桃山時代から明治時代までの日本の音楽を、歌と器楽のアンサンブルで演奏。第2部では庄内藩に所縁のある七絃琴の再現演奏を行いました。
(山澤昭彦)

● 11月13日
● 佳興堂

コロナ禍、対策を施しての開催でしたが、沢山の方にご来場頂き幼児から大学生までの98組による素晴らしい演奏により大盛況に終える事が出来ました。出演者にとって励みや飛躍の場となる様に未来ある演奏家たちを温かく見守り、支えていきたいと思えます。あわせて、指導者の更なる向上と発展を目標に活動していきます。
(小巻千幸)



第71回定期演奏会

鶴岡土曜会混声合唱団

第37回定期演奏会

鶴岡吹奏楽団



今回は庄銀タクト鶴岡で3回目の演奏会となった。第1部では、懐かしい往年の課題曲に加え、今年度のコンクール曲を披露した。第2部では、親しみやすいデイズニー関連のメドレーなどを、わかりやすい解説付きで披露した。
昨年と同様コロナ禍ということもあり、演奏時間は1時間程度、整理券などの工夫を行い短時間での演奏会となった。宣伝はポスターを多めに市街地に掲載し、集客は昨年同様であった。(大場輝和)

● 11月27日
● 庄銀タクト鶴岡

3年連続マスク着用の合唱となりましたが、コロナ禍の窮屈な中、開催することができて良かったです。ゲストの尾形志織さんの素晴らしいソロと湖上千里さんのピアノに触発され、意欲的で感動的な演奏ができました。これからも練習を重ね、市民のみならず喜んでいただけるよう、歌い続けていきます。
(阿部淳二)

発表することの素晴らしさを胸に刻んで

ふじしま文化フェスティバル2022

作品展示・文化講演会・芸能発表会・音楽祭

●10月7日～11月12日

●藤島地区地域活動センターほか

ふじしま文化フェスティバルが10月7日から約1か月開催されました。

10月28日から30日まで開催された第50回藤島芸術文化祭では、絵画など166点が展示されました。29日には民話の語り、ミッチーチェン氏による文化講演会「地域を盛り上げ、元気を発信！これが俺のローカルでの生きGATA」。30日には芸文茶会も開かれ、大盛況でした。



11月5日には、ふじしま音楽祭が開催され、10団体211名が出演し、幅広い年代によるハーモニーが観客を魅了しました。6日には8団体1個人による芸能発表会など、様々な催しで賑わいました。

期間中は5地区の芸術祭、各小中学校及び庄内農業高校の文化祭、東田川文化記念館での明治ホールコンサートも催され、藤島の芸術の秋を盛り上げました。

(ふじしま文化フェスティバル実行委員会)



2年ぶりの羽黒芸術文化祭

令和4年度羽黒芸術文化祭

作品展示、芸能発表、囲碁・将棋・俳句大会

●11月3日～11月6日

●羽黒体育館・羽黒コミセンほか

『羽黒芸術文化祭』が11月3日から11月6日までの日程で開催され、作品展示、芸能発表、囲碁・将棋・俳句大会が行われました。

新型コロナウイルスのため、2年ぶりの開催となりました。例年同時開催の「はぐろ秋まつり」は中止となりましたが、芸術文化祭は感染防止対策を講じながら一部規模を縮小して開催しました。

展示部門では羽黒体育館アリーナを会場に、書道・絵画・写真・手芸など989点の多彩な作品が展示されました。地域の保育園児や小中学生の作品もあり、親子連れなどでにぎわいました。



6日の芸能発表会は羽黒コミュニティセンターで、出演を羽黒芸術文化協会加盟団体に限定し12団体58名が参加。趣向を凝らした発表に観客は少ななかったものの会場は盛り上がりしました。

(羽黒芸術文化祭実行委員会)

櫛引、芸術の秋

第54回くしびき文化祭

文化財めぐり・展示部門・まなびいステージ

●10月8日～11月13日

●櫛引生涯学習センターほか

54回目を迎えたくしびき文化祭は、10月8日(土)の文化財めぐりを皮切りに、展示部門、まなびいステージと予定通りに実施された。文化財めぐりは、酒田の発展の礎となった北前船関連の史跡、新しい酒田の顔となる「ミライニ」を訪問し、酒田を学んだ。

11月3日(木)～6日(日)まで4日間に開催された展示部門では櫛引地域の小学校・中学校・保育園の児童生徒の絵画や習字の展示をはじめ、福祉団体・施設の作品・地域で活動する愛好家の書やちぎり絵、生け花、手芸・写真など多様な作品627点が一堂に会し、とても見ごたえのあるものとなった。文化祭の最後を飾るまなびいステージは11月13日(日)に開催され、特別出演も含めて8団体約60人が出演し、熱気あるステージを披露してくれた。



くしびき文化祭

(実行委員会)



今年度のあさひ産業文化まつりは、コロナ禍により屋外でのおまつり広場は中止となりましたが、例年行っている作品展示のほか、今回は開会行事と芸能発表を3年ぶりに実施することができました。

10月21日から11月3日まで開催された作品展示部門では、書道、絵画、写真、俳句、川柳、生け花、手芸創作作品など、地域の皆さんの個性豊かな力作920点が展示され、大勢の方々が鑑賞されました。

また、メイン日の11月3日には、芸能発表部門として10組14演目が披露されました。どの出演者も日頃の練習の成果を発揮し、力の込められた発表に会場は大いに盛り上がり、惜しみない拍手が送られました。

朝日地域の芸術文化活動の成果を広くPRすることで、芸術の秋を盛り上げ、会場を訪れた多くの方々に楽しんでいただきました。

(あさひ産業文化まつり 実行委員会)



待ちに待った3年ぶりの芸能発表
令和4年度あさひ産業文化まつり

作品展示・芸能発表

●10月21日～11月3日
●朝日中央コミュニケーションセンター

芸術文化で地域の活気を取り戻す
第39回 温海文化祭

作品展示・ステージ発表

●10月22日～11月3日
●温海ふれあいセンター



温海文化祭は、地域住民から親しまれる秋のイベントとして、今年で39回目を迎えました。新型コロナウイルス感染症防止の観点から、昨年度に引き続きお茶会を中止し、作品展示とステージ発表を行いました。

作品展示では、保育園や小中学生、福祉施設、サークル、個人などから、書、絵画、写真、陶芸、生け花、俳句、創作物など857点の個性豊かな作品が展示され、多くの方々が鑑賞されました。

ステージ発表では、踊り、昔話、楽器演奏などの常連の団体以外にも、新型コロナウイルス感染症の影響によって久しぶりの出演となった詩吟や合唱、また、初出演の津軽三味線など、幼児から高齢の方までバラエティに富んだ17ステージが披露されました。ファイナルでは、司会者と出演団体とのコラボ演奏によって最後まで大いに盛り上がり閉幕しました。

(温海文化祭実行委員会)



～未来につづけ 文化のやまがた2022～



緊張したけどだんだんとなれて、本番もうまくできました。みんなとなかよくなれてよかったです。(小3)

仲間と一緒に、知らない子ともふれあって楽しかったです。(小6)

初舞台
子供達の感想

大好き妖精シーン 楽しく演じた！

伊藤 裕美子

11月20日は、県民ホールの雰囲気圧迫されながら、一番目の出演に臨みました。直前のリハでは、会館スタッフの暖かいサポートの中、年上メンバー達がしつかりリード。子供に人気の妖精シーンは、お客様の予期せぬ拍手までいただいた、皆のびのびと演じました。

令和4年11月20日(日)、やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)で開催された「こども郷土芸能・芸術まつり」に加盟団体の出羽庄内市民ミュージカルが出演しました。県内各地から様々な団体が参加し、こどもと大人がともに日頃の成果を披露しました。

出羽庄内市民ミュージカルが出演

山形県芸術文化協会創立60周年記念
こども郷土芸能・芸術まつり

